


ID ^{注1)}	211101	公開レベル ^{注1)}	C	保管形式 ^{注1)}	電子	保管場所 ^{注1)}		前回ID	
-------------------	--------	----------------------	---	---------------------	----	---------------------	--	------	--

報告書名称 /調査名称	令和2年度 世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査						発行年月/報告年月	
							2021年	6月
							資料形式 ^{注2)}	—
調査機関	世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査会・環境省東北地方環境事務所			委託機関				
調査開始年	1999年	6月	調査期間	2020年	6月	～	2020年	11月
調査頻度 ^{注2)}	毎年	—	調査時期 ^{注2)}	春	夏	秋		
モニタリング計画	2012年3月	策定	区分 ^{注2)}	IIA	大区分 ^{注2)}	1	小区分 ^{注2)}	(1)

調査箇所・範囲 ^{注3)}		調査手法		
<input checked="" type="checkbox"/> 核心地域 <input type="checkbox"/> 緩衝地域 <input type="checkbox"/> 周辺地域 <input checked="" type="checkbox"/> GPS等の位置データあり	 <p>※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。</p>	<input type="checkbox"/> 調査項目 ブナ林動態調査 <input type="checkbox"/> 調査箇所数 遺産地域内3箇所（ヤナダキサイト、クマゲラサイト、尾根サイト） <input type="checkbox"/> 調査面積 サイト毎に100m×100m <input type="checkbox"/> 調査手法 種子・リター調査以外は年1回実施、種子・リター調査は6月にリタートラップを設置し7～11月リター回収、11月リタートラップ撤収。 ※平成27年度に関しては道路状況・天候不順の影響でリタートラップの設置を9月に行い、10月～11月にリターの回収を実施した。それ以外の調査項目に関しては例年通りに実施 <成木>・・・胸高直径 5cm 以上の樹木を対象 胸高直径、位置 <低木>・・・樹高 50cm 以上、2m×5m 枠×10 個/サイト 樹高、地際直径 <ササ>・・・2m×5m 枠×10 個/サイト 稈長、地際直径（新規のみ） 生死、群落高 <実生>・・・高さ 50cm 未満、1m×1m 枠×40 個/サイト 樹種、生死、高さ <種子・リター>・・・0.5 m ² のリタートラップ×20 個/サイト 1 か月ごとに回収、仕分け 種子数（状態：未熟、虫食い、しいな、健全）、リター量 <光条件>・・・全天写真 実生枠（1m×2m）につき一地点、地表、ササの上（2m）		

結果概要（スペースに収まるように入力してください）

<ブナ林>
 3サイトとも典型的な日本海側のブナ林の特徴を示していた。クマゲラサイトの半分は地すべり跡地にあり、胸高直径最大約60cmでサイズのそろったブナが多く、一斉に成立したことを示唆する。尾根サイトでは、最大120cmにもおよぶ大径のブナがある一方、過去の倒木によって林冠ギャップとなった部分も多いため、小径の樹木密度が非常に高い分布となっている。ヤナダキサイトのブナ林は典型的なブナ原生林の構造といえる。2018年は台風21号の影響でマザーツリーが折れるなど、被害は他年に比べると大きかったと思われるが、プロット内では明確な影響は見られなかった。

<低木ササ>
 いずれの調査区でも、オオバクロモジ、オオカメノキ、タムシバといった低木性樹種が大部分を占めている。低木ではどのサイトでも、2006年から増加傾向を示している。ササについては尾根サイトで2006年から増加傾向を示している。これは、2004年および2005年にこの地方を通過した台風により、林冠木が倒れ、林冠ギャップが形成されたことと対応している。（図なし）

<ブナ種子>
 ブナの種子生産は2000年と2018年が多く、特に2000年の櫛石尾根では1m²あたり500個を超える種子が落下した。2019年は、健全な種子がすべてのサイトで、0個/m²であり、大豊作の翌年の2001年と同じ傾向を示した。2020年は、健全な種子が尾根サイト93個/m²、クマゲラサイト162個/m²、ヤナダキサイト92個/m²であり2018年には及ばないが、豊作となった。

<実生>
 各サイトともブナの豊作年の翌2001年に密度が最大となったが、大量に加入したブナ実生も、1～2年でほとんどが消失し実生密度の増加はごく一時的なものにとどまった。2014年は2013年に健全種子が落下したため、当年生のブナ実生が3サイト平均0.87個/m²に増加した。2019年のブナの当年生実生は2018年に豊作だったため、尾根サイト17.2個/m²、クマゲラサイト5.1個/m²、ヤナダキサイト2.3個/m²と大きく増加した。2020年は、尾根サイト9.4個/m²、クマゲラサイト2.8個/m²、ヤナダキサイト0.7個/m²であった。2019年は健全な種子が生産されなかったため、2020年は、当年生

世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査会 事務局 長 石橋史朗 office@monitoring.sakura.ne.jp
≪原本（データ）の帰属について≫

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。
 注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。
 注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

備考

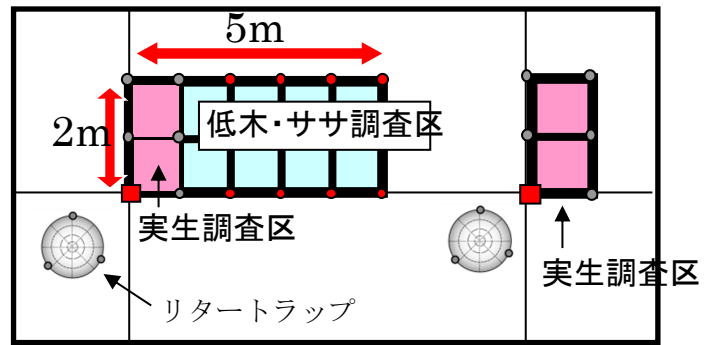
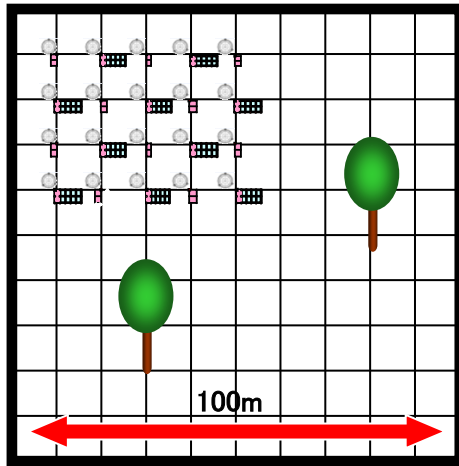
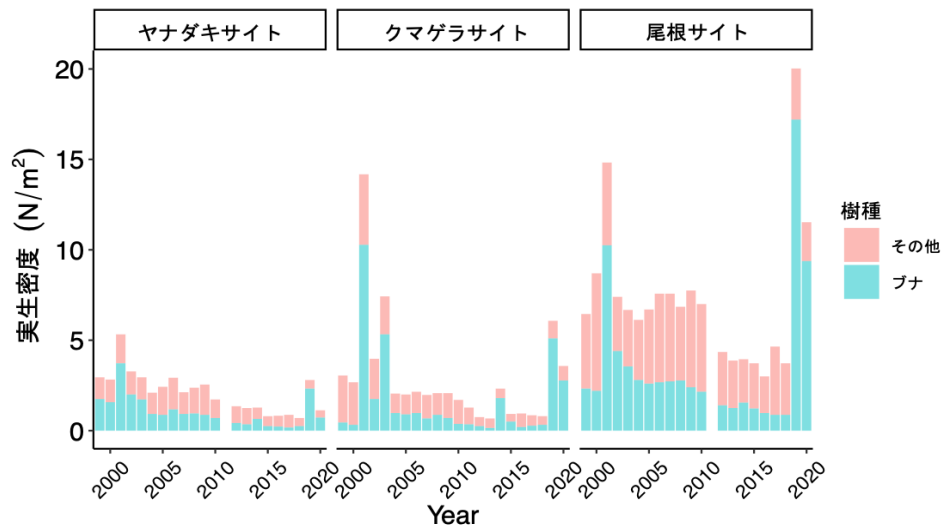


図. コドラート概要図

稚樹数の推移



ブナ種子落下数の推移

